

馳牒而震動一時七八度風雪相并迄今不止後害難知官舍埋雪不能辨錄夫邊要之固以城爲本今已頽落何天非常仍須差諸郡援兵相副見兵備不虞者臣未審商量事在意外仍且差援兵五千百人配遠准令馳驛言上但損物色目細錄追上 國史才百七十一
翼異部土地異驛傳とい別書とい延壽武の歌傳る木
まで上奏する事をいふや工銘めハハ妙
の肉まで尚書の位ハあつて能くは目とい
六家但る細ありて尚書を爲す事とせしに

やに天王寺といハ多門持法增長廣目
のに天王を安至しるなるハ延壽武
出羽正統の条下に天王被法僧依書并
法服料二子六百八十束とあり今を記する
人ハ一東夷を結めあんなに祈のうめに建
あつたや太平記二十し書延元二年七月
新田義貞牒延曆寺衙の条下ハ一平平安
四天王之像將門遂傷鐵身とありけふの
文節を考れば延統討伐の祈は天王を
安至する事例ありにこそは王堂舎とい